

これからは、独居高齢者や認知者の高齢者が増加するにつれ、在宅介護においてより高い専門性が求められることとなります。当社では、職員のレベル

アップに努め、より優れたサービスの開発及び提供を果たしていく所存です。



## 24時間365日の在宅介護を整備

～社会福祉法人長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園（新潟県長岡市）

総合施設長 小山 剛氏

### 地域に入居者を戻すために

当園は1982年に開設した施設です。現在は旧長岡市内の14拠点で、24時間365日の在宅介護サービスを提供しております。

開設当初は市の中心部から離れた施設での介護サービスを提供していました。しかし、利用者が施設に入るのを嫌がる姿、また家族が「こんなところに置いて行ってごめんなさい」と謝る姿を見て、これではいけないと考えるようになりました。そこで、入居者がこれまで住んでいた地域で再び生活ができるように、86年にショートステイの専用居室を整備しました。以後、宿泊介護教室や地域巡回介護教室の開催を通じ、在宅介護の推進を図りました。

利用者を家に戻すにあたり、家族の方には「半泣きにしよう」と呼びかけました。施設では老人が、在宅では家族が泣くことになるので、半分施設、半分在宅の仕組みづくりに腐心し、具現化していきました。

### 施設介護の問題

なぜ入居者は施設を嫌がるのでしょうか。この問題については、自分の身に置き換えて考えれば分かると思います。

生活様式や意見の異なる人が同じ部屋に集められ、生涯そこで生活するというのは、高齢者の尊厳を無視するものです。

また、いわゆるユニットケア（※）についても誤解があります。ベッドしかない小さな個室では、単

（※）ユニットケア……施設の居室をいくつかのグループに分け、それぞれのグループを1つの生活単位として介護を行うこと

なる寝室でしかありません。利用者を地域に戻すための通過点にしか過ぎないのです。

しかし、入居させる家族にとっては、施設は定額負担という金銭的な面にメリットがありました。一方、今は介護保険制度ができ、本人が利用する事業者と介護サービスを契約するのが原則です。家族が勝手に施設での介護を決めるというのは問題ではないでしょうか。

### 24時間365日対応の在宅介護サービス

当園では、在宅介護を続けていくためには、24時間365日、訪問介護や訪問看護の対応が必要だと考え、90年代からそうしたサービスを提供し続けています。また、配食サービスについても、同様に休まず提供を続けています。こうしたサポートがあって、はじめて家族に頼らなくても在宅介護が無理なく続けていけるのだと思います。



カフェテラスやキッズルームを備えたサポートセンター摂田屋

また、職員が24時間自宅にお邪魔することは、家族のプライバシーの毀損につながります。そこで、次の段階として、サービス付き高齢者住宅の提供も開始しました。

### サポートセンターの設置

入居者を在宅介護に移行させるうえで重要なことは、従来の施設と同様のサービスを、総合的に受けることができる拠点の存在です。04年に開設したサポートセンターは、そうした機能を備えるものです。

これは、現在各地で見られるようになった小規模多機能型サービスのモデルとなったもので、小規模ながら食事・家事・介護援助・入浴・看護などのサービスを一か所で提供しています。さらに、近年設置を進めている施設にはカフェテラスとキッズスペースを設け、地域に開放しています。

従来、こうした施設の開設には自己所有が条件付けられていましたが、内閣府に特区申請を行うことで、民間（個人）から賃借で利用しています。各地に拠点を設けるためには、地域住民の力を借りることが不可欠でした。

### IT技術の活用

職員に、パソコンのタブレットを支給し、出先で

報告処理を実施させています。そうすることで、戻ってきてからの書類報告が不要になるだけでなく、要介護者の情報を職員が共有することができるのです。

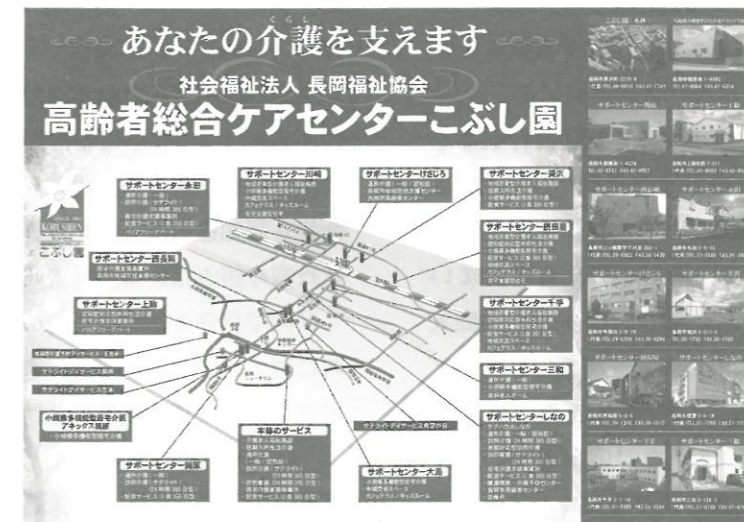
また、サービス利用者の自宅にはテレビ電話を設置し、常に状況を確認するとともに、緊急性を見分け、対応につなげています。

### 「街」という施設での介護

私は、施設介護と在宅介護のサービスの格差を解消するためには、道路を廊下、自宅を居室と考え、街全体を介護施設に見立てれば良いと考えています。地域を施設に例えれば、今後増加する高齢者の在宅生活を支える仕組みができるはずで、現にこぶし園の定員は100人から30人に減らしており、数年後には全ての利用者を地域に戻す予定です。

24時間365日の在宅介護の取り組みを進めていますが、高齢者のくらしを支える仕組みは未だ不十分だと考えています。

「出来る限り現在の生活を継続したい」という高齢者と、そのために心身・費用とも過重な負担を強いられる家族の双方を支えるため、制度に無いサービスであっても、利用者のためになるものであれば積極的に取り組み、介護サービスの質を向上させていきます。



長岡駅周辺の各地域（2中学校区に1か所程度）に12のサポートセンターを配置。サポートセンターでは従来の施設と同様（食事・家事・介護援助・入浴・看護など）のサービスを受けることが可能。また、関連施設により、医療・福祉サービスの支援を完備している。